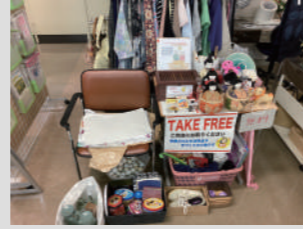


## 市民活動支援センターからのお知らせ

### 誰かの役に立つかな？ まだまだ使える生活用品の寄贈、まちづくり応援基金

2022年3月、寄付金の活用について検討し、配分する交流会を開催。「〇〇の活動に活用したい!」「みんなで使える〇〇がほしい」「みんなで参加するイベントへの出店料や広報費に使いたい!」など、それぞれの活動を紹介し使い方を検討しました。寄付金は①健康づくりのための冊子づくり②学習支援や子どもの食堂の活動に参加している学生への交通費。③空き家を活用したたまり場での交流会の広報費充てることに。

未使用品などご家庭に眠っている小物を収集しています。



2021年度は102,795円!

はじめる・ひろがる・つながる



熊谷市市民活動支援センター



### 2023年度活動報告

## “つながる”活動を再開

「3年ぶり」がキーワードとなった2022年度。支援センターでも様々な取り組みが実施されました。その一部をご紹介します。

## 出会う、たまげて

ニャオざねまつり

市民活動のPRを目的としたニャオざねまつりは2023年度で15回目の開催。9月27日から10月2日までの6日間、熊谷駅近くの商業施設「ニッソーモール」をメイン会場とし、多くの来訪者に市民活動を伝える機会とすることができました。

期間中、より多くの方に来てもらうために、6月から「星川夜市」に出展してPR、9月はJR熊谷駅で、よさこいやゴスペル、フラダンスなどのパフォーマンスで注目を集めながら、チラシ配りもしました。それらにはニャオざね本人も登場。人気の高さを再確認できました。



参加団体56、来場者2,846名、  
アンケート協力617名!

昨年から引き続きFMクマガヤで参加団体の活動紹介のほか、アズ熊谷「プレイスホール」でバンド演奏など、ニッソーモール入口では抽選会ブースを設けるなど、新しい取り組みで、多くの方に出会うことができました。今年度の実行委員長は中西でイベントスペースを運営する青山延子さん。毎月の実行委員会、広報や景品、展示やパフォーマンスなど、各部会もまとめていただきました。アンケートでは「こんなに多くの活動があるとは知らなかった」「身近な活動に参加してみたい」といったコメントが多くありました。



### レイアウト変更、支援センターの変遷

より使いやすい施設をや雰囲気にするため、12月に団体情報ファイル、レターボックス、事務スペースなどのレイアウト変更をしてみました。市民活動センター開設は2007年。当時から使用している備品もまだあります。かつては応接セットがあったのを覚えているでしょうか?2017年からNPOくまがやが指定管理者となり、より使いやすく、明るい雰囲気づくりに取り組んでいます。



↑ 入口にあった応接セット

### 「体制変更のお知らせ」

2017年から所長を務めた小林真が深谷地域での活動に重点をおくため、今後は「コーディネーター・相談員」として皆さまの活動をサポートすることとなりました。後任は生越(おごせ)康治が担います。

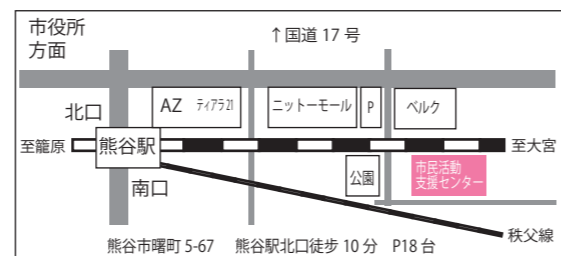
2017年から2023年。熊谷史上最大のイベント・ラグビーW杯をセンターに、祭が近づく高揚感の後半、台風19号、最大の危機・コロナ禍の後半と、おなかいっぱい5年半はこの上なく楽しい日々でした。今後はコーディネーター／相談員として、さらに若い世代をサポートしつつ熊谷の市民活動スピリットを周辺のまちにも広げていこうと思っています。勝手ばかりの所長のサポート、ありがとうございました。(小林真)

この6年間で醸成された自由な雰囲気を継続し、より利用しやすく気軽によってもらえるような施設づくりをスタッフと、そして皆さまと一緒に作ります。

2005年からいくつかの市民活動センターの運営に関わってきました。自身の活動として地域情報発信の仲間づくりや、空き家活用の活動をしています。カレーと猫が好きです。よろしくお願いたします。(生越)



発行：熊谷市市民活動支援センター  
(指定管理者 NPO 法人 NPO くまがや)  
住所：埼玉県熊谷市曙町 5-67  
電話：0485221592  
メール：sc@npokumagaya.org  
休館日：月曜日(ただし祝日の場合は翌日)



### 登録団体交流会(3月) 「みんなの活動見本市」も開催!

支援センターを会場として、登録団体の活動を知ったり少し体験できる「活動見本市」を開催。生活用品のリサイクルフリマ、手づくりの小物やお菓子、鍋帽子でつくったあたたかい料理、お餅、野菜販売やパフォーマンスなどで盛り上がりました。



### ニャオざねまつりの景品 「オリジナルバッグ」をみんなで作りました(9月)

ニャオざねまつりではより多くの方に来ていただきたいため、抽選会や景品のプレゼントをしています。地元の企業、団体の皆さまからいただいたノベルティなどの素敵な景品のほか、今年度の目玉のひとつが、「オリジナルトートバッグ」。シルクスクリーンで版を作成し、実行委員の有志で1,000個作りました。



A4のファイルが入るバッグ、ランチボックス、サコッシュタイプの3種類。また、赤、青、オレンジ、黒など好きなカラーが選べるようにもしました。9月の「星川夜市」や熊谷駅でのチラシ配りの際にもPR。参加者からはバッグがとても喜ばれたほか、制作に参加した実行委員からは「みんなで作ったのが楽しかった」「制作の過程でほかの団体の方とも交流できるきっかけとなった」と感想が多くありました。

## 2023年度活動報告

# “つながる”活動を再開

「3年ぶり」がキーワードとなった2022年度。支援センターでも様々な取り組みが実施されました。その一部をご紹介します。報告します。

### ニャオざねまつりショップも大好評(4月～通年)



コロナ禍のため販売する機会がなくなってしまい、団体の活動継続の資金づくりのために2020年からはじまった「常設の販売コーナー」。リサイクルされた布のぞうりやリメイクバッグなどの小物のほか、畑の取り組みをしている団体からは旬の野菜の販売も。無農薬の野菜は当日に完売になるほど人気でした。



### 皆さまの活動のヒアリングに取り組んでいます!(6月～)

今年度から、登録団体等の現在の状況や活動が始まった経緯などをお聞きし、ホームページなどで活動紹介をしていくヒアリングに取り組んでいます。主に担当しているのは3代目の学生スタッフの青柳大空翔くん(立正大学3年生)。支援センターの登録団体は350団体ほど。さまざま

な分野の活動がありますが、まずは地域や社会の課題解決に取り組んでいる団体から協力をお願いしています。「お困りごと」で多いのはやはりメンバーの高齢化、後継者などの担い手不足です。新しい層に参加してもらうための仕掛けを支援センターも一緒に考えていきます。



ハチドリくらぶさんには多くの会員の方々に協力していただきました。

### 団体の工夫が活きる、ギャラリー展示(4月～通年)



交流スペースを活用したギャラリー展では埼玉文化研究会による「うちわ祭りの山車」、熊谷友の会の「家事や家庭についての展示」、家庭倫理の会の「短歌」、製本装幀クラブの「作品展示」など、さまざまな活動を紹介。会議室利用の帰りなどに見ていく方もいます。



### 楽しい「居場所づくり」を! クリスマス交流会(12月)

中西のレンタルスペースでパフォーマンス系の団体と協力してクリスマスのイベントを開催。ゴスペル、篠笛、バンド演奏などで盛り上がり、音楽でつながる楽しさを再確認できました。

冒頭では市内で「子どもの居場所づくり」に取り組んでいる団体の活動紹介。各地域に子どもや若者が気軽にたまれて、自由過ごせる場があるといいよね、と話が広がりました。



### 近所の子どもたちも参加!交流イベント(8月、1月)

こどもが企画からかかわる企画を主宰する「ぶちくまがや」、空き家を活用して地産地消の食事会を実施している「コミュニティハウス310」などが企画し、子どもが店長になる縁日交流会を開催。近隣の方など多くの来客で賑わいました。



熊谷のお米でつくる「餅つき体験」はできたお餅も大人気。ついてもついてもすぐなくなるほどでした。普段はあまり来館しない子どもたちが支援センターを知るきっかけにもなりました。

### 第2中央生涯活動センター(仮)説明会を開催(1月)

熊谷市は老朽化した施設や更新の難しい施設を集約・複合化し、新たな施設の整備を計画しています。石原にある現勤労青少年ホーム等敷地内に、子どもからシニアまでの多世代が気軽に集い、交流できる場として、第2中央生涯活動センターが建設されます。令和10年に市民活動支援機能は生涯活動センターに移管される予定です。登録団体の方々を対象とした説明会が開催されました。

当日はオンラインも含めて40名以上が参加。計画をすすめる担当の方々より、現在の計画を説明していただきました。使い勝手などの機能のほか、交通や運営についてなどについても切実な要望や活発な意見交換。引き続き、ユーザーミーティングでも話題にしていくこととなりました。

